

2017 年度コラボミュージアム作品づくりコンテスト

小学校・中学校部門 アピールシート

平成 30年 1 月 19日

所属名 : 千葉県 柏市立 手賀中 学校

実践学年組: 3年 1組

氏名: 大橋紳一郎

教科	総合的な学習の時間
実践期間	29年6月20日 ~ 29年6月29日
実践タイトル (35 文字以内) 現地情報を活用して、的確な班別行動を自分たちの手で作るコラボ修学旅行	
実践の目的 事前に立案した行動計画を土台にしながらも、現地の状況をコラボノートを活用し、情報交換をしながら、軌道修正を加味し、班員が満足できる修学旅行をつくりあげ、情報活用能力を育成する。	
実践のポイント・工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・通常の班別行動計画は事前に完成する。・ナビ係りを新設して、ルート検索や交通手段の検討など学級活動とは別に設定し、担当の教師と綿密に打ち合わせする。 ・学校の PC 室を利用し、コラボノートの使用の作業研修時間を設定し、業者の方から直接指導を受ける場の確保をする。・修学旅行中に、中間発表ができるようにホテルと打合せする。 	
実践内容 (簡単に)・事前計画づくり (ナビ係りの研修会議) 京都・奈良方面の地域学習 3時間 ・コラボノートの使い方を知ろう (PC 室) 業者指導 1時間 <ul style="list-style-type: none"> ・見学や拝観場所を班員会議で絞り込もう 3時間 (PC 室利用)・京都駅にて、コラボノート起動と通信関係の確認 30分。・現地での活用実践。修学旅行1日目の現地情報を共有しよう。1時間。中間発表会にてコラボの活用の利点と改善点を話し合おう 1時間。修学旅行終了後、学校にてコラボノートに残した写真やコメントを活用して、まとめをしよう 1時間。*完成した新聞を掲示して、お互いに鑑賞しよう。*保護者会でも紹介しました。 	
(コラボノートを) 使用してよかった点を教えてください <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行当日の班同士の通信によって、例えば見学地の混雑状況など情報交換を生かすことができた。編集機能や写真の取り込みなど、その場でできることが最大の利点だった。最後のまとめの新聞づくりでは、生徒たちが集中して、しかも短時間で完成させられたことで、さまざまなアイデアの下で、時間の有効活用に繋がった。 	

実践記録の概要（単元略案）

※コラボノートを活用した場面だけではなく、全体の学習の流れとコラボノートをどの場面でどのように活用したか記載してください。

全24時間

時数	学習活動	先生の指導・支援 および評価	コラボノートの活用
1	修学旅行の班別行動計画を立てよう。	ガイドブックやPC室での検索をしながら、各自での希望をまとめる。	
2~3	修学旅行の班別行動計画に修正を加えよう。	ナビ係りの会議での奈良公園周辺や京都の見学地についてのルートづくりを参考にしながら、実際の計画案を完成させる。	
4~6	コラボノートの機能を知ろう。	PC室を利用して、全体で確認する作業を通して、ノートの活用についての基本操作を体験する。JR四国の方から学ぶ。	機種の基本動作のチェックや通信の仕方を学ぶ。
7~13	修学旅行1日目の奈良公園までの行程で、ノートを使おう。	中心となって操作する生徒に必要な情報機能をマスターさせ、使おう。先生方のスマホとの通信も機能させ、情報交換に努力する。	班行動しながら、他の班との情報交換や記念写真やコメントを添える。
14~15	発表会の準備と中間報告会	班会議にて役割分担をする。宿泊のホテルの会議室にて、1日の班行動の様子を発表する。プロジェクターの活用。	発表会の内容の吟味や他の班から学ぶことで、2日目の行動計画にさらに修正を加える。
16~21	2日目の京都市内見学を成功させよう。	前日の修正案について検討するとともに、ルート変更や当日変更も可能にさせる。	新し情報を生かす。
22~24	まとめとして共通の様式で1枚に仕立てる。	コラボにあるデータを使いながら新聞をつくる。コラボ会社の方のアドバイスを受ける。	ふりかえりの意見や画像交換に活用。